

保育者のかかわり

子どもたちの中でブームになっていることをキャッチして見守り、子どもたち同士と一緒に遊べるような素材や教材を設定する。

地域の実態を把握して、保育に取り入れる工夫をする。小学校との交流の機会にゴムを使った遊びが流行っていることを伝える。

思うようにならない様子を受け止め、一緒になって残念がり「何でかなあ」と共感する。



机の上を使いやすく整えながらかかわる。

「何で進まないのかな」「どうすればいいのかな」などと言い、考えるきっかけになるようにする。

B児の疑問やA児の言動が伝わるように、言葉にして橋渡しをする。

子どもの姿

あれっ(きっかけ)

輪ゴムって面白いね。伸びたり縮んだり飛んだりする。

やってみる

- ・ゴムと割り箸で、紙飛行機を飛ばそう。
- ・公園で飛行機を飛ばしているおじさんもゴムを使っている。まねしてもっと遠くに飛ばしてみよう。
- ・割り箸鉄砲を作ろう。
- ・小学生がゴムで跳ねるおもちゃを教えてください。作ってみよう。

もしかしたら

- ・舟を作り浮かべたけど、動くようにしたい。「ゴムを使ったスクリューをつけよう」
- ・止めるテープは強い方がいい？「セロテープより、ビニールテープがいい」
- ・舟は重い方がいい？大きい舟がいいかな？「飾りがあると早く進まない」「軽い方がいい」「大きいと遅い」
- ・スクリューの羽根の大きさや数は？「スクリューの大きさより小さい舟がいい」「牛乳パックよりトレーの方がいい」

やっぱり

- ・ゴムの数を増やすと上手くいかない。
- ・紙飛行機を飛ばす時も、多くても長くても上手くいかなかった。
- ・やっぱり2本が一番いい。

伝える・伝える

- ・園庭のパーゴラが舟作りコーナーになる。「舟を作る」「動く舟を作る」「水に強い舟を作る」「早く動く舟を作る」など目的をもち、情報交換をする。

向き合う・わかり合う

- ・スクリューの仕組みなどすぐにわからないB児がいる。舟が動かなくて不満げにする。
- ・A児は自分の動く舟を貸す。B児は借りてやってみることで、自分も作りたくなる。

ポイントになる環境

様々な素材を使いやすいように分類してコーナーに設定する。みんなで食べたお弁当に付いていた輪ゴムを集めて置く。

同じ思いの仲間がいる。

近隣の公園に遊びの刺激になる地域の人がある。子どもたちにとって魅力的な姿を見てかかわる体験につながる園外保育の機会がある。

興味深い素材“輪ゴム”を使った手作りおもちゃを教えてください小学生との交流の機会がある。

同じ目的の子ども同士が刺激を合いながら、試行錯誤や探求を重ねられる環境がある。<園庭のパーゴラ>

素材の質や特徴、太さや長さ、硬さなど、違いによる比較や選択ができるような教材がある。

子ども自身の考えや工夫、技能で扱うことができる。

自由に試行錯誤を重ねる時間や場が保障されている。

同じ目的で最後まで一緒にやり遂げようとする仲間がいる。

気付いたことや失敗を言葉にして、情報を交換したり考え合ったりする友達がいる。

挑戦していること、困っていることを、子ども同士で共有できるような関係をもてる場がある。

子どもたちは思いやイメージの実現のために、意欲的に環境にかかわって遊びを進めています。自分たちで課題や困難に気付いて解消し、最後までやり遂げる中で科学する心が育まれています。

そこには、子どもたちが次々と疑問をもち、様々な発見をしながら人やものや自然とかかわれる自由感のある豊かな環境があり、目的に向かって最後まで探求を重ねられる場や時間が確保されています。